

## 会 議 記 録

会 議 名	「(仮称) 第3次宇都宮市観光振興プラン (以下「第3次プラン」という。)」第1回策定懇談会
会議主催課名	宇都宮市経済部観光交流課
日時・場所	令和4年10月19日(水) 午後2時30分～午後4時10分 宇都宮市役所 14A会議室
出席者	<p><b>【委員】</b> ※委員名簿順, 敬称略</p> <p>宇都宮共和大学 特任教授 古池弘隆</p> <p>(株)あしぎん総合研究所 地域開発事業部 部長 佐藤和寿</p> <p>(株)JTB宇都宮支店 観光開発プロデューサー 高橋政稔</p> <p>東日本旅客鉄道(株) 大宮支社 地域共創部 地域連携ユニット マネージャー 佐々木真弓</p> <p>東武鉄道(株) 東武宇都宮駅 駅長 熊倉与一</p> <p>宇都宮ライトレール(株) 経営企画部 部長 大根田友範</p> <p>宇都宮タクシー事業者協議会 会長 濱田隆也</p> <p>宇都宮ホテル旅館協同組合 常任理事 福田治久</p> <p>協同組合宇都宮餃子会 専務理事兼事務局長 鈴木章弘</p> <p>宇都宮農業協同組合 営農部 営農企画課長 佐藤 文雄</p> <p>(一社)宇都宮観光コンベンション協会 常務理事 鈴木孝美</p> <p>宇都宮商工会議所 常務理事 小関裕之</p> <p>(一社)うつのみやシティガイド協会 代表理事 藤本由利子</p> <p>(株)新朝プレス monmiya 編集長 花塚理恵</p> <p>公募委員 森拓海</p> <p>&lt;代理参加&gt;</p> <p>橋本賢太(関東自動車(株) 路線バス部 部長 福島崇文委員の代理)</p> <p>&lt;欠席&gt;</p> <p>(株)ファーマーズ・フォレスト 第一エリア営業グループ 総支配人 田代賢一</p> <p>(特非)大谷商工観光協力会 理事長 大久保裕之</p> <p>サイクルスポーツマネジメント(株) 代表取締役社長 柿沼章</p> <p>公募委員 石和スワンニー</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>経済部長, 経済部次長, 経済部副参事(都市魅力・MICE担当), 観光交流課長, 観光交流課職員3名</p>
公開・非公開の別	公開

傍 聴 者	0名
配 布 資 料	<p>次第</p> <p>資料1 「(仮称) 第3次宇都宮市観光振興プラン」 策定懇談会設置要綱</p> <p>資料2 「(仮称) 第3次宇都宮市観光振興プラン」 の策定に伴う現状等について</p> <p>別紙1 第3次プランの構成</p> <p>別紙2 本市観光の現状</p> <p>別紙3 観光を取り巻く社会環境の動向</p> <p>別紙4 本市観光の課題</p>
次 第	<p>1 開 会</p> <p>2 挨 拶</p> <p>3 「(仮称) 第3次宇都宮市観光振興プラン」策定懇談会の設置について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設置要綱について 事務局より、懇談会設置要綱について説明を行った。</li> <li>・ 委員の紹介</li> <li>・ 会長・副会長の選任 委員の互選により、会長に古池委員、副会長に鈴木(孝)委員が選任</li> </ul> <p>4 議 事 事務局より資料・別紙に基づき説明を行った。</p> <p>5 その他</p> <p>6 閉 会</p>
会議で議論 となった事 項	<p><b>【4 議事】</b></p> <p>「(仮称) 第3次宇都宮市観光振興プラン」に伴う現状等について</p> <p>&lt;別紙2 本市観光の現状について&gt;</p> <p>(協同組合宇都宮餃子会 鈴木委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ M I C Eの積極的誘致とあるが、現状、宇都宮市としてのM I C E誘致に対するアクションはどういった指針の中で示されているのか。</li> <li>・ 同じくインバウンドについても、改定作業を行っている観光</li> </ul>

振興プランに導くための宇都宮市の考え方を教えて欲しい。

**(事務局)**

- ・ M I C Eについては、「M I C E戦略」の中で、医療などの学会、企業などを中心に誘致ターゲットとして据えて誘致活動等に取り組んでいる。また、宇都宮駅東口交流拠点施設だけでなく、市内のあらゆる施設なども含めながら宇都宮観光コンベンション協会とともに誘致活動に取り組んでいる。
- ・ M I C E開催自体にも経済効果・交流人口の拡大に寄与するものと捉えているが、M I C E開催後、いわゆるアフターコンベンションについても、交流人口の拡大等にもつながると思っているので、次回の施策の協議の中で議論することになるが、ナイトタイムの施策などを組み込むことを現段階で考えている。
- ・ インバウンドについては、ビジネスユースでの来訪が多いことから、ビジネスユースを捉えたインバウンドの取組や相手方の兼ね合いもあるが、広域連携の視点を取り入れたい。

**(宇都宮共和大学 古池会長)**

- ・ M I C Eのワードが分からない人もいたので、どこかに説明を入れて欲しい。

**(事務局)**

- ・ M I C Eの説明を入れる。

**(宇都宮ホテル旅館協同組合 福田委員)**

- ・ ここで議論しなくても良いのかなとは思いますが、M I C Eのところで、「関係団体の共通認識」とはどういったものか。
- ・ M I C Eに関しては、先ほど医療という話だったのと、施設はもう完成しているものなので、第3次プランに計上されるものという事は認識しているが、医療業界は、この感染症の恐れが消えるまでは、ほぼハイブリットでの開催となっていると思う。ハイブリットの優位性を作っていないとまらないのでは

ないか。

- ・ コンベンションの参加人数を稼ぐのはしばらく厳しいと思う。2次プラン策定時と3次プラン策定時で世の中は変わってしまっている。絵に描いた餅になる。実際、医療関係者に話をしているけど、現地に行かなくても大丈夫と言う。件数は稼げてても人数は稼げないと思うので、今後、考えていただきたい。

**(宇都宮共和大学 古池会長)**

- ・ コロナの時代で、私自身もオンラインで2年間宇都宮市を出ていない。かえって会議の回数はオンラインが増えている。1日2つ、3つもざらである。
- ・ そのような中、これまでMICEを考えていく場合、人が来るということを前提に考えてきたところであるが、果たしてこれからもそれで良いのかよく議論いただきたい。
- ・ なお、MICE戦略は、第3次宇都宮市観光振興プランの下の位置づけにあるようだが、これはどういうことなのか説明をいただきたい。

**(事務局)**

- ・ まず、「MICE戦略」の位置づけだが、資料2「(仮称)第3次宇都宮市観光振興プラン」の策定に伴う現状等について」の1(2)にあるように、本市のまちづくりにおいて「第6次宇都宮市総合計画」が最上位となっており、その下に福祉などの様々な分野、その中で経済分野として現在中間の改定作業を進めている「うつのみや産業振興ビジョン」がある。
- ・ その中では、商工・観光・農業などを含めた経済活動全てを包含しているビジョンになっている。そして、観光ということで今ご議論をいただいている「宇都宮市観光振興プラン」が含まれている。
- ・ そして、この図にあるように、「観光」という切り口でいっても、「MICE」や「スポーツ」、「大谷地域」に絞ったうえで戦略を策定し、取り組んでいるところである。
- ・ MICEについては、庁内会議においてもオンライン会議の

経過を踏まえてという意見はあった。今後施策の中で検討をしていく必要があるという認識はしている。

- ・ 「関係団体との共通認識」については、端的にはなっているが、誘致活動を行う上で、関係団体などと改めて共通認識を図りはじめたところである。

**(宇都宮共和大学 古池会長)**

- ・ オンライン会議が普通になってきて、国際会議もオンラインになってきている。それに対してどう対応していくか。

**(株式会社あしぎん総合研究所 佐藤委員)**

- ・ 「餃子以外の認知度向上につながった」とあるが、これは何か定量的なもので測っているのか。
- ・ 現状のところで「～の必要がある。」という風に記載されているが、この辺りの施策とかは後になってから出てくるという認識で良いか。

**(事務局)**

- ・ 定量的な評価については、毎年実施している「宇都宮市観光動態調査」の中で餃子はもちろん、「ジャズ」、「カクテル」、観光施設である「ろまんちっく村」など細かいところも含めて測っている。
- ・ 「～の必要がある。」については、課題の中に盛り込まれ、次回、「施策」としてこれらに対応したものが盛り込む。

**(宇都宮共和大学 古池会長)**

- ・ 宇都宮市に来る人でいうと、観光客として来る場合と先ほど出たビジネスユース、仕事で来てついでに観光として、アフターコンベンションなどがあり、実際の数の把握が難しい。宇都宮市は、これだけ工業団地が豊富で、夜の観光も多い。その辺りの切り分けはどうなっているか。そもそも分けられないのか。

**(事務局)**

- ・ 現状は、なかなか判別が難しい。動態調査をはじめ、外国人でいえば、移動の分析を今回入れさせてもらった。特に平出工業団地や清原工業団地に向かう方が多い、なのでこちらをビジネスユースと定義付けさせてもらったところである。我々も可能な限り、ビジネスなのか観光なのかを分かるようにしたい。
- ・ 基本的に、観光動態調査は観光で来ている調査ではなく、市に来訪したことがあるかどうかでしか調査できていない。

**(宇都宮共和大学 古池会長)**

- ・ 前に聞いたところによると、国籍別で見ると、アメリカ人が一番多いみたいな話があって、ビジネスでは、もちろんタイとか中国からも来ているのだろうけど、本当は分けられると良いのだろうが、実際は仕事をしてから観光をとという人もいるので悩ましいということは十分理解できる。

**(宇都宮観光コンベンション協会 鈴木副会長)**

- ・ 観光については、当然、観光入込客数とか宿泊者数とかあると思うが、国の方でも、稼ぐ観光を実現していくと言っている。
- ・ そのような中、宇都宮市第2次観光振興プランにも「観光消費額」が記載されているが、何が入っているのか。

**(事務局)**

- ・ 「観光消費額」は交通費を除く金額となっている。

**(宇都宮観光コンベンション協会 鈴木副会長)**

- ・ そうすると、宿泊、飲食、土産といったところか。その辺りの数字はどこから持ってくるのか。

**(事務局)**

- ・ 「宇都宮市観光動態調査」の中で把握している内容である。

**(宇都宮観光コンベンション協会 鈴木副会長)**

- ・ 今後、第3次プランを考えていく時には精度が高いものがあると良い。

### <別紙3 観光を取り巻く社会環境の動向>

(古池会長)

- ・ 観光DXについても、注釈を入れて欲しい。
- ・ 栃木県で「新とちぎ観光立県戦略」と私たちが議論している「宇都宮市観光振興プラン」の整合性についてどう考えているのか。

(事務局)

- ・ 栃木県という単位で見ると、日光市などの有名観光地を捉えながら計画を練っているものと考えている。
- ・ 「新とちぎ観光立県戦略」でいう、例えば「選ばれる観光地づくり」や「受入体制の整備」などの柱の部分は共通しているものとする。
- ・ しかしながら、施策の部分は、整合性は図りつつ、宇都宮市の特徴を捉えながら、MICE招致なども含めて考えていきたい。

### <別紙4 本市観光の課題>

(宇都宮共和大学 古池会長)

- ・ この課題が今後の観光振興プランを作るうえでの大きな枠組みになるということによろしいか。

(事務局)

- ・ その通りである。来月に再度お集りいただいて、次回の懇談会において、基本戦略や推進施策等に移っていく。

(宇都宮タクシー事業者協議会 濱田委員)

- ・ 第1次宇都宮市観光振興プランの懇談会も参加させていただき、その時にも学識経験者の方がおっしゃっていたが、宇都宮市は、客観的に見てハード的な観光資源が少なく、今からど

うこうしようとできるものではないことから、その辺りを踏まえて体験型のものが重要ではないだろうかという話をされていた。

- ・ それと課題のところにもあるが、「本市の多彩な観光資源の認知度向上を図る」というところで、私の勉強不足かもしれないが、ちょっと多彩な観光資源というのがどういったものがあるのかなというところ。ただ、もしかしたら一般の方もこういったところの認知度が低いのかなと一般論として考えている。
- ・ また、県と連携するという話だが、県はというと、全て栃木県の総括であるので、日光であるとか鬼怒川であるとか益子であるとか、ハード的に資源を持ち合わせているところと、やはり一緒に整合性を持ってやっていくことが大切であると思うが、宇都宮市は宇都宮市で、そのあたりの切り口や立ち位置をはっきりさせて進んでいった方が、魅力を先鋭化させることができるのではないかと思う。

#### (事務局)

- ・ 本市は、餃子をはじめ大谷なども認知度が向上しており、大谷については他の市にない観光資源であると思っており、本市の特徴的なものを捉えながら、観光資源の磨き上げ等に取り組むとともに、体験型についても、国の動向でも触れたが、施策の中で反映できたらと考えている。

#### (宇都宮共和大学 古池会長)

- ・ 昔は名所とか史跡巡りというところだったと思うが、今は、新しい都市観光という形で、既に東口が一部オープンしており、さらには、来年8月の開業であるLRTなど新しい魅力ができつつある。
- ・ それから大切なのは、周遊型で色々なバリエーションを経験できる旅行形態がどんどん求められると思う。
- ・ 特に栃木県とうまく連携をしていく必要があると思っている。日光や益子と競争するのではなく、うまく連携して。インバウンドはJRでいえば、ジャパンレールパスで必ず宇都宮経



由で行く。そういう作戦ができれば良い。

**(協同組合宇都宮餃子会 鈴木委員)**

- ・ お願いにはなるが、観光振興プランは各部署にドロップするとは思いますが、ぜひ部をまたぎ、課をまたぎ様々なところで共有をして欲しい。例えば宇都宮ブランド推進協議会との連携であるとかかなり重複しているところが多く、各セクションが重複した動きもしている。できれば横連携を図ってもらいたい。
- ・ 特にデジタルの部分だと、スーパースマートシティの取組として実証実験で、私どもが取り組んでいるものとして、来らせにおいて、来訪客が多く、待ち時間が長いというところで、LINEをインフラとしてシステムを組み、予約システムを構築している。これを活用することで、来訪者がどこから来るか、どういった目的で来たか、広報面でいうと、プッシュ型の広告がLINEを通じてできるというものであり、これは部をまたいでいる。
- ・ 私たちがコンテンツホルダーとなって、たまたま部をまたいで観光交流課と連携してやっているけれども、これがなければ、同じ動きがなかなかつかめなかったと思う。せっかく使えるインフラがあるのであれば、ぜひ宇都宮市の取組なので。
- ・ 宇都宮市はこれだけの規模なので、なかなか部をまたぎ、課をまたぎということが難しくなっている。他の小さい規模であれば、隣の席で話ができるくらいだが、中核市である宇都宮市はこれだけの規模であるので、職員の数も多く、案件がまたがらないという事象を様々目にしてきた。ぜひ、観光として戦える宇都宮市を作るためにも、部をまたぎ、課をまたいでもらいたい。

**(事務局)**

- ・ 観光振興プランを策定していくうえで、経済部内だけでなく、移住定住なども含めて共有しながら進めていきたい。

**(宇都宮共和大学 古池会長)**

- ・ 今、「オール宇都宮市」で、市役所全体でうまく横の連携を図ってもらいたいというようなことであり、同感である。
- ・ もうひとつは、この懇談会には色々な分野の方が出席してもらっていて、今、鈴木委員からもあったように、ラインを使ってビックデータでということになると、役所だけでできる話ではない。民間とうまく連携、官民連携で最大限活用してもらえればと思う。

**(株式会社あしぎん総合研究所 佐藤委員)**

- ・ 外に向かって発信するというのが前面に出ているが、魅力を発信するのにインナーキャンペーンが大切であるとも言われていて、学生は7割外に出ている3割しか入ってこないという時代になっている。
- ・ 我がまち宇都宮ってこんな良い街だと外で発信してもらって、彼らが友達を呼んで宇都宮に来てもらってそういったところで印象を深めてもらうということも大切である。
- ・ 我々宇都宮市民が誇りを持って自信を持ってというマインドが…、若いうちからマインドの醸成ということが大切だということ、なるほどなと思った。そういったものも大切なのかなと思う。

**(宇都宮共和大学 古池会長)**

- ・ いわゆる外だけでなく、内に対しても、市民に対してもインナーキャンペーンも必要であると思う。

**(株式会社JTB 高橋委員)**

- ・ 私が着目しているのは、Z世代（一般的に1990年代後半から2000年生まれの世代と言われている。）である。今後この地域を盛り立てていくのは、今の高校生や大学生、20代の社会人である。こういう観光の課題を解決するにあたり、Z世代の意見を取り入れていただければと思っている。
- ・ 資料にある「広域連携」のところで、どうしても守り、ソフトなプロモーションが目立っていると思っていて、宇都宮市は

ポテンシャルが高いところであるから、積極的に、例えば、日光市のどこかに、いわゆるアンテナショップのような宣伝する施策があっても良いと思う。実際に宇都宮市の企業も、旧日光市の通りに店を構えていて、お聞きしたところによると、「ここで売れなくても良い、ここから大谷の方の本店に来てくれれば良い、宣伝のひとつなのだ」と言っていた。そういう気概のある事業者さんもいらっしゃるのです、ぜひ、そういったところと一緒に露出を高めていけば、おそらく宇都宮駅での途中下車という流れも出てくると思う。

**(宇都宮共和大学 古池会長)**

- ・ 宇都宮市も経済部が主体となって、虎ノ門ヒルズにサテライトオフィスを持っているという、地方自治体の中でも先進である。
- ・ 高橋委員がさっきおっしゃった、県内でも日光市にアンテナショップ等を出すというお話も、ぜひ隣の自治体と連携して、共に栄えるというそういうことが必要である。
- ・ それからZ世代のご指摘は、大変貴重である。森委員から何か発言を。どういったら若い人たちにアピールできるか。

**(公募委員 森委員)**

- ・ 地元の友達には宇都宮市の観光を紹介している。友達以外にも発信するのであれば、宇都宮市出身の YouTuber とかに宣伝をしてもらうということもあるのではないか。

**(宇都宮ホテル旅館協同組合 福田委員)**

- ・ 資料にある「課題① 観光客等に訴求する更なる観光資源の磨き上げや新たな観光資源の発掘」のところで、「ナイトタイムコンテンツや観光拠点大谷を含めた北西部を中心とした観光資源の磨き上げや発掘、スポーツツーリズムなどの個性あるツーリズムの展開、MICE誘致の強化、アフターコンベンションの充実に取り組んでいく必要」とあるが、内容の順番はこのままでお願いしたい。

- ・ スポーツツーリズムやスポーツコンベンションでいうと、ちょうど国体の開催があったところであるが、栃木県との連携ではないが、県が素晴らしい施設を宇都宮市に建設していただいたおかげで、今までにない都市機能が増えた。
- ・ 非常に有名な選手が、普段の練習場所にしてもらったり、大会で宿泊していただいた方が、ナショナルチームの合宿で使ってみたいという声もいただいている。合宿だけでなく、スポーツツーリズム、スポーツコンベンションの誘致をしていけば、これらは、全てリアル開催であり、国体の時も、まさに繰り出してももらえたので、多くの消費を促せたと思う。だから、リアル開催というのは非常に大きい。
- ・ したがって、第3次宇都宮市観光振興プランの前半の期間は、それを基盤に、コロナが落ち着いたらMICEの誘致という流れに…、もちろん施設を建設したのでMICE誘致を載せないとならないだろうけれど、柔軟な変化ができることも宇都宮市の強みであるので、ぜひその辺りも反映してもらえればなと思っています。

**(宇都宮観光コンベンション協会 鈴木副会長)**

- ・ 別紙3にある社会環境の変化の中でSDGsとかサステナブルとか、観光DXとか押さえてあるが、課題に目を向けると、その辺りが感じられなくなってしまっている。
- ・ むしろ、サステナブルとかスマートシティーとかSDGsへの貢献とか、DXは、これらの6つの課題を全部貫いていく、ある意味、縦串の課題なものではないかと感じるので、横と縦でうまくやっていく、見える化をしていく必要があるのではないか。

**(宇都宮共和大学 古池会長)**

- ・ 社会環境の変化も課題のところに取り入れるように。

**(宇都宮ライトレール株式会社 大根田委員)**

- ・ 来年8月の開業を目指しており、まず何より安全安心な運行

の実現に取り組んでいるところであるが、観光客の移動手段としても期待されていると認識していて、それは我々も取り組んでいくところである。

- ・ 観光コンテンツとしても、私どもも、運行第一の中で、小さな組織ながらどこまで頑張れるかというところではあるが、ぜひ、事務局の皆様やこちらの会議にいらっしゃる委員の皆様のお力もいただきながら、一緒に取り組んでいければと思っている。一緒にご検討をお願いしたい。

**(宇都宮共和大学 古池会長)**

- ・ 課題のところ、宇都宮市の公共交通の便が悪いというところがあったと思うが、それが来年から非常に便利になる。
- ・ L R Tだけでなく、バスなり地域内交通の2次交通の連携も含めてL R Tだと思う。
- ・ そして、観光の目玉としていうと、世界でいうと、レストラン電車とかお祭り電車とかイベント的なものがあると思う。観光資源としてもっとより良くなるのではないかと思う。そういうところも我々としても宇都宮ライトレール株式会社にもお願いしたいところであり、宇都宮市においても、うまく市の観光振興につながるように活用してもらえればと思う。